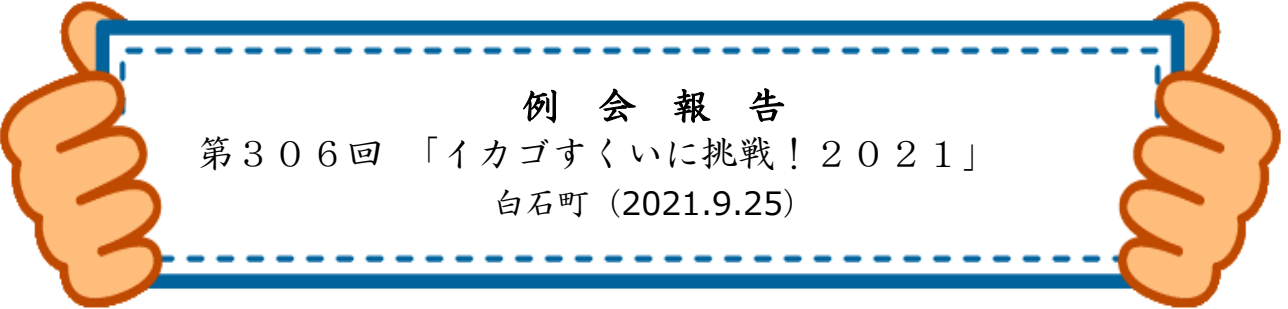




例会報告

第306回 「イカゴすくいに挑戦！2021」

白石町（2021.9.25）

秋の穏やかな夕暮れ、今回の例会の舞台である新有明漁港に団員家族が続々と集合しました。少年団でのイカゴすくいは平成25年（中止）、平成26年以来となりました。

今回も佐賀自然史研究会の濱野大作先生の指導を受けながらイカゴ漁に挑戦です。とは言っても、集合した時18：00時点では見渡す限り一面の干潟。潮が満ちてくるまで飛行機雲を眺めたり、港に戻ってくる船を眺めたりして夕暮れのひと時を過ごしました。また、サガテレビのクルーの方々も今回の活動の様子を取材しに来られていました。

19：00ぐらいになると干潟がなくなり、子ども達は待ってましたと言わんばかり、栈橋から網を出してイカゴの姿を狙いました。濱野先生から発電機と投光器を用意していただき、強い明かりを水面に当て、満ち潮によって流れてきたイカゴをおびき寄せようしました。

水面近くに動くイカゴの影を逃すまいと子ども達が動かす網の様子は真剣そのもの。「イカゴだ！」と、すっとすくっては、残念！エビやトビハゼでした。でも、捕まえた生き物たちを自慢げに大人に見せてくれました。

潮は十分に満ちて、イカゴ到来への子どもも大人もイカゴ到来へのボルテージが高まってきました。しかしながら、待てど待てどイカゴはやってきません。

濱野先生は、そんな私たちを飽きさせまいと投網をしてくれました。その網にはメダナ、ボラなどがたくさん入っていました。メダナはボラとよく似ていますが、れっきとした別種の魚で、ボラのような独特の臭みが少なく白身は美味しいそうです。また、一匹だけ30センチオーバーのスズキもかかっていました。そこでスズキ争奪ジャンケン大会を即興で行い、藤家くんがゲットしました。結局その日は、イカゴは一匹も姿を表すことはありませんでした。21時になったので例会は終了としました。

スタッフも帰ろうとしていたところに、地元の方もイカゴの様子を見に来られていました。そこでイカゴ捕りについてのウンチクをお聞きしました。現在、沖にはイカゴがたくさんいるそうですが、どうも海の塩分濃度が関係しているせいか、岸に近づいて来ないそうで、ここ数日は自分も全く捕れていないとのこと。イカゴが多く集まるときには、灯かりの周りをグルグル回るらしく、この新有明漁港では引き潮になる頃もイカゴがたくさんとれるそうです。今回を機にリベンジしてみたいと思われた方はぜひ参考にしてください。

今回はイカゴに会えず、残念な気持ちではありましたが、自然相手ですのでこればかりは仕方ありません。今回、久しぶりに会った団員家族の姿を見てみると、これまでなかなか外に出るの体験ができなかったこともあってか、有明海の自然を楽しむことができていたようでした。今回、下見や機材などの準備など、いろいろとお世話いただいた濱野先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。（参加者54名）



集合して濱野先生の話聞く



潮が満ちてイカゴすくい開始！



水面の影に注目してイカゴを待つ



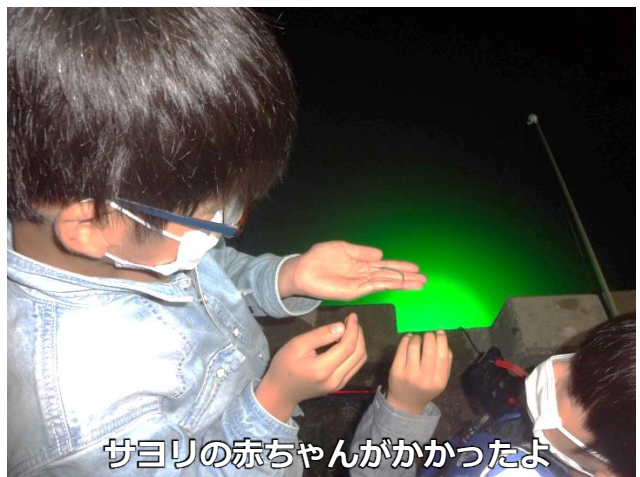
イカゴとの根競べだ！



トビハゼをゲット！



テレビの取材中



サヨリの赤ちゃんがかかったよ



投網でメダナをゲット